國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

スタッフ紹介

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/1783

スタッフ紹介

* 氏名、現職、専門分野、担当プロジェクト、および2008年度の研究業績について紹介しています。今年度新任のスタッフについては、研究紹介および2008年度以前の研究業績についても掲載しています。

井上順孝　所長・教授　宗教学・宗教社会学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[監修]

・『すぐわかる日本の神社』東京美術、2008年12月

[論文]

・「霊能番組への関心と宗教情報リテラシー―第9回学生宗教意識調査の結果を中心に―」(『國學院大學研究開発推進機構・日本文化研究所年報　創刊号』)、2008年9月

・「日本における新宗教研究の展開と今後の課題」(『ラーク便り41』)、2009年2月

・「大学生の意識調査から―占い・オカルトブームと若者」(『月刊国民生活』、国民生活センター）2008年8月

・「映画・ビデオ・ＤＶＤ」(『宗教と現代がわかる本2009』(平凡社)、2009年3月

[報告書]

・『宗教文化教育に関する学生の意識調査報告書』(大正大学・國學院大學・大阪国際大学・神戸大学、編集責任)、2009年2月

[書評]

・市川裕・松村一男・渡辺和子編『宗教史学論叢13　宗教史とは何か』(『週刊読書人』)、2008年12月

[講演録]

・「若者を取りまく『宗教情報』」(『全国弁連通信』124、全国霊感商法対策弁連)、2009年1月

・「第44回シンポジウム―テーマ　浄土をいかに伝えうるか」(『龍谷教学』44、龍谷教学会議)、2009年3月

[対談]

・「辛酸なめ子が斬り込む！ご利益を呼ぶ！神社の作法」(『日経ＢＰ』)、2009年2月

[学会発表・講演・シンポジウムなど]

・「新宗教における神仏習合」(講演、花園神社）2008年6月

・「情報時代の宗教文化教育の教材」(日本宗教学会学術大会、筑波大学、特別部会、司会）2008年9月

・「戦後史における〈価値教育〉―宗教教育・道徳教育の過去と現在―」(教育史学会第52回大会シンポジウム、青山学院大学、コメンテータ)、2008年9月

・「ウェブ経由の神道・日本宗教―インターネット時代の宗教文化教育のゆくえ―」(国際研究フォーラム、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所・科研費「大学における宗教文化教育の実質化を図るシステム構築」共催、司会）2008年10月

・「〈宗教情報〉とメディアリテラシー」(国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンター、科研費「宗教教育における情報リテラシーの日韓比較」共催、國學院大學、司会）2008年11月

・「ＮＨＫ文化講座　宗教がわかると世界がわかる①～③」(公開講座、ＮＨＫ文化センター）2009年2月～3月

・「日本における新宗教研究の展開と今後の課題」(東アジア国際会議、基調講演、司会）2009年2月

石井研士　教授　宗教学・現代社会と宗教

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[単行本]

・『テレビと宗教　オウム以後を問い直す』中央公論新社、2008 年 10 月

[論文]

・「ステレオタイプ化する宗教」(『現代宗教 2008　メディアが生み出す神々』秋山書店)、2008 年 8 月

・「日本人の宗教観　今とこれから」(『文化庁月報』12 月号・NO.483)、2008 年 12 月

・「神社神道はどこへ行くのか」『皇學館大学神道研究所紀要』第 25 輯、2009 年 3 月

[その他]

・『埼玉県・後継者問題実態調査報告書』、2008 年 5 月

・『宗教団体の社会的貢献活動に関する調査報告書』庭野平和財団、2009 年 3 月

黒崎浩行　准教授　情報化と宗教、現代社会と神社神道

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[論文]

「ヴァーチャル参拝のゆくえ」(国際宗教研究所編『現代宗教 2008』秋山書店)、2008 年 8 月。

[口頭発表]

「地域づくりへの参加機会創出と神社祭礼―人吉市の事例から―」(パネル「現代日本における地域活動と宗教文化の活用―神道と福祉の接点」、日本宗教学会第 67 回学術大会、筑波大学)、2008 年 9 月

「祭礼の世代間継承がもつ福祉文化的性格」(神道宗教学会第 62 回学術大会、國學院大學)、2008 年 12 月

[その他]

「黒いオルフェ」、「三十四丁目の奇蹟」、「ファンシイダンス」(井上順孝編『映画で学ぶ現代宗教』弘文堂)、2009 年 5 月

平藤喜久子　准教授　神話学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[単行本]

・共著『すぐわかる日本の神社―『古事記』『日本書紀』で読み解く 』(東京美術)、2008 年 12 月

[論文]

・「植民地・朝鮮と日本の比較神話学―三品彰英の朝鮮研究―」(『東アジアの古代文化』135 号、大和書房)、2008 年 5 月

・「初期ジャパノロジストたちと神話学」(『東アジアの古代文化』137 号、大和書房)、2009 年 1 月

[学会発表・講演会・シンポジウムなど]

「インターネット上の宗教文化教育教材の現状と利用上の問題点」(パネル「情報時代の宗教文化教育の教材」日本宗教学会第 67 回学術大会)、2008 年 9 月

・「外国人留学生の日本宗教への関心」(国際研究フォーラム「ウェブ経由の神道・日本宗教―インターネット時代の宗教文化教育のゆくえ―」國學院大學)、2008 年 10 月

・「チェンバレンの古事記翻訳」(護符・起請文研究会、國學院大學)、2009 年 2 月

ヘイヴンズ ノルマン (HAVENS, Norman)　准教授　日本宗教史、日本の民間信仰

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

松本久史　准教授　近世・近代の国学・神道史

担当プロジェクト「近世国学の霊魂観をめぐるテキストと実践の研究―霊祭・霊社・神葬祭―」

［その他］

・（資料翻刻・共著）「近世国学の霊魂観をめぐるテキストと実践の研究―霊祭・霊社・神葬祭―」研究事業「相馬地方における平田銕胤書簡（VI）」（『國學院大學研究開発推進機構紀要』１）、2009 年 3 月

中野裕三　講師　神道神学

担当プロジェクト「近世国学の霊魂観をめぐるテキストと実践の研究―霊祭・霊社・神葬祭―」

［論文］

・「近世から近代に至る国学者による「宝鏡開始章」註釈の比較」（國學院大學研究開発推進センター編『史料から見た神道―國學院大學の学術資産を中心に―』弘文堂）、2009 年３月

［学会発表・講演・シンポジウムなど］

・「近世から近代に至る国学者による「宝鏡開始章」註釈の比較」（平成 20 年度神道宗教学会学術大会）、2008 年 12 月

遠藤潤　助教　日本宗教史

担当プロジェクト「近世国学の霊魂観をめぐるテキストと実践の研究―霊祭・霊社・神葬祭―」

［単行本］

・（共著）遠藤潤「出雲大社と人生儀礼」（大社町史編集委員会編『大社町史　中巻』出雲市）、2008 年 9 月

［論文］

・「宮地直一における神道研究と神社行政の接点―今後の研究のために―」（『國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要』1）、2009 年 3 月

［学会発表・講演・シンポジウムなど］

・「神葬祭運動と情報収集―三河国平田国学者における―」（日本宗教学会第 67 回学術大会）、2008 年 9 月

・講演「平田篤胤の考える幽冥界」（日野市郷土資料館特別展「ほどくぼ小僧・勝五郎生まれ変わり物語」関連講演会、日野市郷土資料館）、2008 年 10 月

・テーマセッション「幕末期の神道と霊魂観」コメンテーター（神道宗教学会学術大会）、2008 年 12 月

・「幕末における国学・仏教と国家―平田国学の仏教批判と仏教からの反批判―」Tokugawa Conference, Selwyn College, Cambridge, 2009 年 3 月

［その他］

・（資料翻刻・共著）「近世国学の霊魂観をめぐるテキストと実践の研究―霊祭・霊社・神葬祭―」研究事業「相馬地方における平田銕胤書簡（VI）」（『國學院大學研究開発推進機構紀要』１）、2009 年 3 月

・（資料翻刻・共著）「金銀入覚帳」（宮地正人編『国立歴史民俗博物館研究報告 146 平田国学の再検討（三）』国立歴史民俗博物館）、2009 年 3 月

星野靖二　助教　宗教学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

［論文］

・「成瀬仁蔵のキリスト教理解―郡山時代を中心に」（『日本女子大学総合研究所紀要』11）、2008 年 11 月

［学会発表・講演会・シンポジウムなど］

・"How a Buddhist Became a Unitarian: Nakanishi Ushio and His Interpretation of Unitarianism" in the panel "The Construction of Universal Religions in Meiji Japan before 1893" organized

by Michel Mohr, at The Twelfth Asian Studies Conference Japan, held at Rikkyo University, 2008年6月

・「『新佛教』と「信仰」」(「『新佛教』の言説空間、その宗教史・文化史的意味」パネル (代表者:吉永進一) における発表) (日本宗教学会第67回学術大会)、2008年9月

・「植村正久と近代日本の宗教思潮」(植村正久生誕150周年記念会、於富士見町教会)、2008年11月

[その他]

・書評論文「“汝の隣人”の宗教」(『国際宗教研究所ニュースレター』No.58, 2008.4.25)

・翻訳「過ぎ去ることのない「残滓」」ハリー・ハルトゥーニアン著、星野靖二訳 (『みすず』no.564、2008年9月)

市川収　客員研究員　惑星物質科学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

カール・フレーレ(FREIRE, Carl)　客員研究員　近代の日本史(特に社会史・思想史)

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

【研究紹介】

現在、University of California, Berkeleyの歴史学部博士課程の論文を作成している。テーマが公的領域の立場からみる近代の日蓮系在家教団の社会運動・活動についてである。

市田雅崇　PD研究員　民俗宗教研究

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[論文]

「明治初期における神社祭祀の変容と地域社会」(『加能民俗研究』40)、2009年3月

大澤広嗣　PD研究員　宗教学、近代日本宗教史

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[論文]

・「南方軍政と宗教研究者の動員―昭南軍政監部、馬来軍政監部の渡辺楳雄」(平成17ー19年度科学研究費補助金・基盤研究 (A) 研究成果報告書『日本・イスラーム関係のデータベース構築―戦前期回教研究から中東イスラーム地域研究への展開』、研究代表者:臼杵陽)、2008年6月

・「ビルマ占領と仏教対策―東洋大学出身者の動向を中心として」(『アジア文化研究所研究年報』第43号、東洋大学アジア文化研究所)、2009年2月

[学会発表・講演会・シンポジウムなど]

・「戦時下フランス領インドシナにおける文化工作―大日本仏教会、国際仏教協会を中心に」(第16回日本近代仏教史研究会研究大会)、2008年5月

・「財団法人大日本仏教会の南方対策」(日本宗教学会第67回学術大会)、2008年9月

・「戦前戦中期の仏教界における「回教」認識―『中外日報』を手掛かりとして」(平成20年度科学研究費補助金・基盤研究 (B)「第二次世界大戦期の日本及び枢軸国の対中東・イスラーム政策の比較研究」研究会、研究代表者:臼杵陽)、2009年1月

李和珍　研究補助員　宗教社会学、日韓の新宗教教団の比較研究

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[論文]

宗教W eb 紹介「韓国新宗教のウェブによる情報発信―圓仏教を中心に―」(『ラーク便り』第 39 号)、2008 年 8 月

ヴァラー・モリー(VALLOR, Molly) 研究補助員

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

小林威朗 研究補助員 近世後期の国学・神道史

担当プロジェクト「近世国学の霊魂観をめぐるテキストと実践の研究―霊祭・霊社・神葬祭―」

[論文]

・「岡熊臣『三大考之追考』の「天地泉」―霊魂観研究の序として―」(『國學院大學研究開発推進機構紀要』1)、2009 年 3 月、

[学会発表・講演・シンポジウムなど]

・「岡熊臣の霊魂観」(神道宗教学会第 62 回学術大会テーマセッション「幕末期の神道と霊魂観」)、2008 年 12 月

[その他]

・(資料翻刻・共著)「近世国学の霊魂観をめぐるテキストと実践の研究―霊祭・霊社・神葬祭―」研究事業「相馬地方における平田銕胤書簡(Ⅵ)」(『國學院大學研究開発推進機構紀要』1)、2009 年 3 月

三ツ松誠 研究補助員 幕末国学研究

担当プロジェクト「近世国学の霊魂観をめぐるテキストと実践の研究―霊祭・霊社・神葬祭―」

[論文]

・「「洲羽国」の思想―平田門人松澤義章の世界―」(『思想史研究』第 9 号)、2008 年 9 月

・「本居内遠「古学本教大意」の再検討―本居文庫本の翻刻から―」(『國學院大學研究開発推進機構紀要』1)、2009 年 3 月

[学会発表・講演・シンポジウムなど]

「「幽界物語」の波紋」(神道宗教学会第 62 回学術大会テーマセッション「幕末期の神道と霊魂観」)、2008 年 12 月

[その他]

(資料翻刻・共著)「近世国学の霊魂観をめぐるテキストと実践の研究―霊祭・霊社・神葬祭―」研究事業「相馬地方における平田銕胤書簡(Ⅵ)」(『國學院大學研究開発推進機構紀要』1)、2009 年 3 月

アイフラ アンネマリー(EIFLER, Annemarie) 共同研究員 日本学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

江島尚俊 共同研究員 近代日本における宗教と近代化

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

ガイタニディス ヤニス(GAITANIDIS, Ioannis) 共同研究員 医療人類学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

【研究紹介】

基本的に興味を持っているのは人間がどうやって・どこで病に対しての療法を求めているのかということです。学部は日本学科ですが、修士では東南アジアの医療人類学を学び、現在日本の呪医・宗教的職能者の活動を研究しています。その中で、特にフォーカスしているのは「精神世界」の一つの部分である

現代化した霊能者、スピリチュアル・ヒーラーなどと言われている人達です。その職能者をインタビューしたり、活動を観察したり、お客さんの情報を集めたりしています。研究の視点はもちろん人類学ですが、私が明確にしたいのはこの現象に対する一般人の視点です。

キロス　イグナシオ(Quiros Enrique Ignacio Luis)　共同研究員　上代の国学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

【研究紹介】

奈良の古典文学には、「人間の声は効力や呪力がある現象としてとらえられている」という説があり、それは「上代の言霊信仰」と密接につながっている。本研究はその「言霊信仰」がどこに起因し、どのように出現するのか、そしてどんな特徴があるのかを探るものである。そのために、まず「言霊」という言葉が初めて現れた時代、つまり上代の日本に焦点を当てるのがよい。次にその時代の古典（古事記、日本書紀、風土記、祝詞、万葉集など）に出現する「言霊」を列挙し、それぞれの文脈からその語の全体的な意味を推測することが大事である。しかし、「言霊」という言葉だけに絞ると「上代日本文化における音声が与えられた効力」という現象の十分な解釈がのぞめない。したがって、上代の「言霊」が表す儀式的な様態（コトアゲ、コトムケ、コトヨサシなど）の分析も欠くことができない。

こうした過程を通して、言葉と音声にどんな関係があったのか、またそれが日本文化にどんな影響を与えたのかを理解することが可能になるだろう。この研究は古典文献学、神話学、宗教学、歴史学、詩学、民俗学という色々な学問の接点にあるだけにいっそう試みるに値するものだと思われる。上述の 3 点を軸に研究すればこのプロジェクトは「上代の言葉の人類学的な研究」と言えるものになるだろう。

【2008 年度以前の主な研究業績】

・『日本文化における腹と腰を中心に身体に関する概念』(修士論文)、ボルドー第三大学、2007 年
・「ポール・リクールによる哲学的な解釈と神話学的の解釈との包含の相違関係」ボルドー第三大学、2007 年
・「夏目漱石と２０世紀の初期における新感覚派との文体上の相違」ボルドー第三大学、2006 年
・「西田幾多郎の哲学に関する体験の概念について」ボルドー第三大学、2006 年
・「身体に関する慣用句「腹を決める」について」名古屋外国語大学、2006 年

小堀馨子　共同研究員　古代ローマ宗教研究

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

【研究紹介】

古代ローマ人の宗教がいかなるものであり、それが西欧社会で研究された際にどのような解釈を以て受容され、またそれが修正されてきたか、という古代ローマの宗教およびその宗教研究史に深い関心がある。特に、西欧語の religion の語源であるラテン語の religio がいかに現代の religion とは異なる意味を有していたか、というテーマで研究している。それに伴い、古代ローマ宗教や神道などの非西欧宗教を西欧語で語る時に生じる諸問題を通して、いかに現代人の「宗教」観が近代ヨーロッパ社会をモデルとして築きあげられたものであり、その点にいかに自覚的になりつつ宗教研究者は自らの対象とする宗教研究を進めるべきかに関心を寄せている。

【2008 年度の研究業績】

[学会発表・講演会・シンポジウムなど]

・"Questions on ancient Roman religion in the republic" Société Franco-Japonaise des Études Grecques et Romaines, Circulaire no. XX (2009)、アテネフランセ、2009 年 2 月

【2007 年度までの主な研究業績】

[単行本]

・(共著) 小堀馨子「古代ローマの太陽神 (帝政期前期)」(宗教史学研究所編『太陽神の研究』下、リトン社)、2003 年 5 月

[論文]

"Roman Religion and its Religiosity" (『東京大学宗教学年報』19、東京大学宗教学研究室)、2002 年 3 月

[学会発表・講演会・シンポジウムなど]

・"Religio in Cicero's work" (Classical Association Annual Conference 2006 at University of Newcastle upon Tyne) 2006 年 4 月

シッケタンツ エリック (SCHICKETANZ, Erik) 共同研究員 宗教史学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

高橋典史 共同研究員 宗教社会学、日系宗教の海外布教研究

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[論文]

・「日系移民社会と日系新宗教―ハワイの天理教の場合―」(『一橋研究』第 33 巻第 1 号)、2008 年

・「ハワイの日系新宗教における信仰継承―天理教の教会長を事例に―」(『宗教と社会』第 14 号)、2008 年

・「20 世紀初頭のハワイ日系仏教における〈二重のナショナリズム〉の出現」(『ソシオロゴス』32)、2008 年

[その他]

(翻訳) サラ・サール「神道―日本の固有宗教をこえて―」高橋典史訳, 國學院大學研究開発推進機構デジタル・ミュージアム双方向翻訳プロジェクト、2008 年

http://www.kokugakuin.ac.jp/oard/OARD-DM.html

武井順介 共同研究員 宗教社会学、社会調査論

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[単行本]

・(共著) 武井順介「他者の人生を記述する―ライフヒストリー・アプローチの基礎」(立正大学文学部社会学科編『質的調査ガイドブック』立正大学文学部社会学科)、2008 年

ビュテル ジャン＝ミシェル (BUTEL, Jean-Michel) 共同研究員

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

フィルス ドロシア (FILUS, Dorothea) 共同研究員 宗教社会学

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

・"Interreligious Education and Dialogue in Japan", in International Handbook of Interreligious Education, edited by K. Engebretson et al. (Dordrecht, the Netherlands: Springer Academic Publishers), forthcoming 2009.

・"Globalization and Religion: Some Aspects of the Globalization and Glocalization of Christianity Among the Kakure Kirishitan in Japan", Seijo CGS Working Paper Series, No.1, Tokyo: Center for Glocal Studies, Seijo University, 2009.

・"Interreligious Dialogue in Japan", The Japan Mission Journal, 63/2:88-110, 2009.

ベルスハイム　美夏(BELSHEIM, Mika)　共同研究員　社会文化人類学・日本宗教

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

松本喜以子　共同研究員　計算機シミュレーション

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[論文]

・(共著) 松本喜以子・入澤寿美・和光純・武藤滋夫・岡田章・国方まり「戦略プログラムを用いた経済ゲームのシミュレーション解析手法の開発」(『学習院大学計算機センター年報』29)、2008 年

山田（永井）美紀子　共同研究員　近現代における日本の新宗教

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[単行本]

・(共著) 永井美紀子「近代における諸宗教の活動」(大社町史編集委員会編『大社町史　中巻』出雲市)、2008 年 9 月

ロハニ　ビナヤク(LOHANI, Binayak)　共同研究員　仏教美術

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

【研究紹介】

日本における神社および仏教寺院建築の、ネパールにおけるヒンドゥー教および仏教寺院建築との比較研究。

【2007 年度までの主要研究業績】

・(共著)『ヒンズー教の男神パシュパティと女神グヘスワリに関する研究』1989 年

・『英国の博物館および図書館に所蔵されているネパール仏教古物についての研究』1993 年

・"Comparative Iconographical Studies of Tantric and Non Tantric various forms of Buddhist Madona Avalokitesvara (Kannon) in India, China, Japan, Nepal and Tibet for the 1st century to 18th century AD" 2009 (Ph.D Dissertation)

関守ゲイノー (SEKIMORI, Gaynor)　客員教授　日本宗教史

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[論文]

・ " Shugendo: Japanese Mountain Religion. State of the Field and Bibliographic Review" Religion Compass (article). 2009 年 1 月

[学会発表・講演会・シンポジウムなど]

・EAJS Conference, Lecce, Italy (paper). "O-take Dainichi Nyorai: Representation and Transformation in Premodern Japan" 2008 年 9 月

・CSJR Symposium, SOAS, London (paper). "O-take Dainichi Nyorai, or How a Servant Woman in Edo Became an Icon of Haguro Shugendo" 2008 年 10 月

ナカイ　ケイト・W (NAKAI, Kate Wildman)　客員教授　日本思想史

担当プロジェクト「デジタル・ミュージアムの構築と展開」

[学会発表・講演会・シンポジウムなど]

"A Matter of Distrust: Seji Kenbunroku and Its Context," European Association of Japanese Studies Triannual Meeting, Sept. 2008, Lecce, Italy

"Situating Mitogaku: Aizawa Seishisai and the Naobi no Mitama Debate," Conference on Tokugawa Thought, Selwyn College, Cambridge University, March 2009

林 淳　客員教授　日本宗教史

担当プロジェクト「近世国学の霊魂観をめぐるテキストと実践の研究―霊祭・霊社・神葬祭―」

[単行本]

・(共著) 林淳「近世津島社の社家組織と御師」(『近世の宗教と社会１』吉川弘文館)、2008 年

・(共著) 林淳「マルクス主義と宗教起源論」(『マルクス主義という経験』青木書店)、2008 年

[論文]

・ 林淳「梓神子と神事舞太夫」(『国立歴史民俗博物館研究報告』142 集)、2008 年 3 月